

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374000384		
法人名	医療法人静巖堂医院		
事業所名	グループホーム好日庵2階		
所在地	愛知県新城市副川字大貝津13番地		
自己評価作成日	令和6年12月10日	評価結果市町村受理日	令和7年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2374000384-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	令和7年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム好日庵の目的は、入居様が地域で自立した生活を送ることができるよう入浴、排泄又は食事の介護、生活に関する相談や助言、その他日常生活上の援助を行う共同生活施設です。また、入居様が共同生活を通して自ら行っていただく「日常生活の場」であり、毎日の生活を安全に・快適に送っていただく「暮らしの場」でもあります。施設内はバリアフリー設計であり、居室は個室(洋室)でプライバシーが守られ、スプリンクラー設備や自動火災報知設備を完備していますので、安全・安心に暮らしていただけます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの運営母体が医療機関で、同一建物内に併設していることで、利用者の健康状態に合わせた医療面での支援が行われていることが特徴でもある。身体状態の重い方もホームでの生活を継続できるような支援体制がとられており、利用者や家族の安心感にもつながっている。ホームの取り組みとして、感染症等の状況をみながら、専用のバスを借りた県外への日帰り旅行が行われており、利用者の外出の機会の確保の他にも、身体機能の維持、改善にもつなげている。また、外部の方との交流が困難な状況が続いていたが、感染症等の状況が徐々に落ち着いてきたことで、本格的に外部の方との交流を再開する取り組みが行われている。併設の医療機関との連携も行いながら、行事(静蔵堂感謝祭)の取り組みが行われており、徐々に以前の活動に戻す取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	管理者が変更となり新しい理念のもとで、入居者様、職員が満足できる環境づくり、サービスを提供している	ホームの基本理念を職員による支援の基本に考えながら、日常の支援を通じて職員間で理念の共有につなげている。また、職員で個人目標をつくり、理念の内容の振り返りにつなげる取り組みも行われている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事へ積極的に参加したり事業所のイベントに地域の方に参加していただき交流している	地域の方との交流については、感染症問題が落ち着いてきたこともあり、併設の医療機関とも連携しながら交流会（静巖堂感謝祭）を開催している。また、地域の小学校とも、行事等を通じた交流を継続する取り組みも行われている。	ホームでは、徐々に地域の方との交流の機会を増やす取り組みが行われており、今後に向けたホームの取り組みにも期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の啓蒙活動RUN伴に参加したり、在宅介護の方の相談に応じている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホームの活動報告をし、地域からの意見や要望を取り入れサービスの向上に努めている	会議については、対面方式での会議を継続しており、地域の方や家族との情報交換等が行われている。また、地域の小学校の先生や市内の他のグループホームの方の参加も得られており、交流につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	制度や加算の指導をいただいたり報告を行いながら協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当部署や地域包括支援センターとの情報交換等については、運営法人の関連事業所とも連携しながら行われており、ホームの運営への反映につなげている。また、市内で行われている行事等にホームからも参加、協力する取り組みも行われている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての指針を基に研修を実施し全ての職員が身体拘束をしないケアを実践している	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者が広いホーム内を自由に移動できるように職員間での見守りが行われている。また、身体拘束に関する定期的な委員会や職員研修も行われている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止についての志士を基に研修を実施し、管理者・職員とともに防止に努めている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会資料等で知識を身に着ける機会を持ち必要時には活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族の不安や疑問点に向き合い、理解・納得した上で契約していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会やモニタリング時、家族から出た意見、要望を家族会や運営推進会議で外部者に伝え運営に反映させている	ホームで県外への日帰り旅行を実施し、利用者と家族の交流の機会につなげている。利用者や家族からの要望等については、管理者が対応する体制がつくられている。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月々のミーティングや面接を利用し、職員の意見や提案を聞き運営に反映させている	毎月の職員会議の他にも日常的にも職員間で意見交換等の機会をつくり、管理者を通じてホームの運営への反映につなげている。また、管理者による職員面談の機会をつくりながら、職員一人ひとりの把握につなげる取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人目標を基にリーダーと職員は年2回の面談をして取り組んだ成果や思い等を聞き取り、働きやすい環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	オンライン研修、OJT研修等で学ぶ環境を用意し研修を受ける機会の確保を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	OJT研修に参加して他施設の職員との情報交換により、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	自宅を訪問したり、多方面から時間をかけてアセスメントし、本人の要望を取り得れ安心して利用できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	キーパーソンをはじめ家族が困っていることや、今後の不安を伺いながら信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族の要望をすり合わせ、必要な支援を見極めニーズに合ったサービス提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護する側、される側としてでなく、共に家事をしたり出かけたり共同生活をする者同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族意を交えて食事会や外出を行い、家族と一緒に支援する関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人のアセスメントで馴染みの場所に出かけたり、人との関係が途切れないよう支援している	利用者の中には、関連事業所を利用している方や併設の医療機関への受診等を通じて、利用者の入居前からの関係の方との交流の機会にもつながっている。また、家族との外出も行われており、身内の方と過ごす機会がつくられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係性や残存能力を考慮し円滑な人間関係が築け、支え合って生活できるよう支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	施設が変わったり、退去された後も本人、家族の関係性を大切にしながら相談等に応じられるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式のアセスメントを活用したり、日々の関りで本人の思いや希望の把握に努めている	職員間で利用者を担当する取り組みを行いながら、利用者に関する意向等を把握し、職員間での共有につなげている。また、定期的なカンファレンスも行われており、利用者や家族の意向等を検討し、センター方式を活用したアセスメント等につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人家族やこれまでに利用していたサービス事業所からのアセスメントを行い、生活歴などの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居時のアセスメントを基に入居後の日々の関りから心身状態、残存能力の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	全職員がプランの目標に対する課題を行い、それを基に作成されたモニタリングを家族に共有し、そこから出た意見や要望を次のプランに反映させている	介護計画については、1年までに見直しが行われているが、利用者の状態変化等にも合わせた随時の対応も行われている。また、介護計画の内容に合わせたチェック記録も残し変化等を把握し、定期的なモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに沿った内容で個々の介護記録を記入を行い職員で共有し、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々のニーズを抽出し一人ひとりに合った柔軟な支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	移動販売車で買い物をしたり、地域の小学校やこども園の行事に参加したり、認知症カフェを利用し個々の楽しみを提供している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	法人内の診療所がかかりつけ医になっていることで本人、家族、職員と共に信頼関係があり安心して医療が受けられる	当ホームの運営母体が医療機関であることで、利用者の健康状態に合わせた医療面での支援が行われている。他の医療機関への受診は家族の支援で行われている。また、ホームに看護師が勤務しており、協力医との連携や医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	身体面の変化等について気づきを相談して適切な看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にこちらの情報を提供し、退院に向け病院関係者との情報交換を密にするように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に本人、家族の意向を確認をし重度化した場合には再度、意向の確認を行った上で関係者と連携しながらチームで支援に取り組んでいる	身体状態が重い方も生活を継続できるように支援体制がつくられており、協力医とも連携した看取り支援も行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを行い、ホームで対応可能な内容の確認が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所内の研修や勉強会で学び応急手当や初期対応の実践力を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業所内の訓練と合わせて地域住民の方々と合同で訓練を行い協力体制ができている	ホームでは、年2回の避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等が行われている。また、災害に関する地域の方との交流やホーム内に水や食料等の備蓄品を確保する取り組みも行われている。	ホーム建物の構造上の制約もあり、非常災害時における利用者の避難誘導に困難も考えられる。非常災害に関するホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	パーソンセンタードケアの考え方を基本とし入居者様を尊重したケアを心掛けている	職員間でホームの基本理念の確認も行いながら、職員による利用者への対応や言葉遣い等の意識向上につなげる取り組みが行われている。また、職員の接遇につながる研修も行われており、職員の振り返りの機会につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定が出来るような言葉かけや発語が少ない方にはクローズドクエスチョンで対応したり、表情を読み取り自己決定が出来るように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	タイムスケジュールに拘らず一人ひとりののペースを大切に、臨機応変に対応し希望に沿った支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一緒に服を選んだり季節や気分によって、その人らしい装いが出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立作成、買い物から調理、配膳、片付けに至るまで残存能力を活かしながら職員と一緒に進んでいる	食事については、曜日によって外部業者と職員によるメニューで提供が行われている。利用者も調理や片付け等に参加している。季節等に合わせた食事の提供やおやつ作りも行われている。また、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりに合わせて食事形態、量を配慮し、体調を見ながら十分な量が摂取できるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケア、就寝前の義歯の消毒を行っており、本人の能力に応じて声掛けや介助を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表から排泄パターンを周知しトイレ誘導を行い、一人ひとりに合った排泄用品と排泄の際の言葉かけ、介助で自立に向けた支援を行っている。	利用者の排泄記録を残し、A3サイズの日報等の活用も行いながら情報を共有し、一人ひとりの支援につなげている。トイレでの排泄を基本に声かけ等が行われている。また、協力医や看護師と連携した、排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	主食に玄米を混ぜたり。乳製品、繊維質の多い食材を使うようにしており、日課としての体操やリハビリ運動を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	基本的には1日おきに入浴をしているが、その日の体調や気分配慮し、なるべく希望に合った支援をしている	利用者が週2～3回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方も声かけ等を行い、定期的な入浴につなげている。また、利用者の身体状態に合わせた入浴支援や季節等にも合わせた柚子湯や菖蒲湯等の入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりに合った寝具を用い、安眠できるよう空調にも気を使っている。又、日中も自身のペースで休息が確保できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報の副作用、用法、用量について職員が理解し、服薬の支援と症状の変化を日々確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとり残存能力を活かした役割を持っていたり、それぞれが楽しめるアクティビティを提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	買い物やドライブ、外食、認知症カフェ等のイベントへの参加等、家族や地域の方々と協力している	ホームでは、利用者の外出の機会がつけられており、日常的な散歩をはじめ、年間を通じて様々な場所に出かける外出支援が行われている。また、ホームで専用のバスを借りた日帰り旅行も行われており、県外へ出かける機会がつけられている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	店舗や移動販売車で買い物を、又は法人内の自動販売機での支払いができるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族との会話を希望されている方には電話でお話ができるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の応じた展示物や植物で四季を感じられるようにしたり、清潔な室内で不快や混乱を招くような刺激が無いように工夫している	ホーム内は広いスペースが確保されており、利用者がホーム内を自由に移動ができるように、閉塞感を感じないような生活環境がつけられている。また、季節等にも合わせた飾り付けや利用者の作品の掲示を行う等、アットホームな雰囲気づくりも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやテーブル席を複数配置し、それぞれが好きな場所で過ごせるような居場所作りを行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使い慣れた家具や小物等、居室に持ち込み可能で落ち着いて心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、ユニットにより家具類やトイレ等の設置状況が異なり、居室環境に合わせた家具類の持ち込みが行われている。また、家族との写真や趣味の物等を飾る等、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室や共用トイレには分かりやすい表示がされており、居室、リビング、食堂は移動しやすい動線となっている		